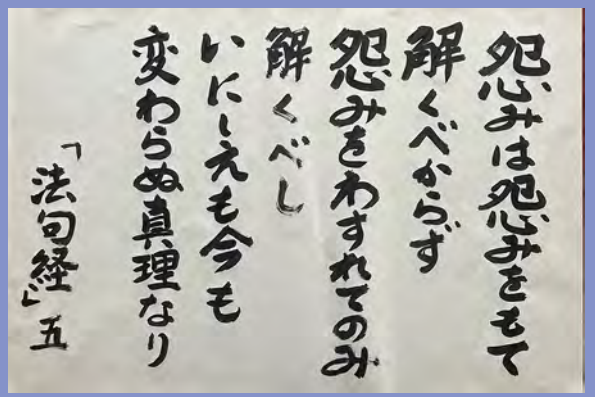
實相寺花園会報

令和六年
八月一日発行
発行所
臨済宗妙心寺派
陽明山　實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087－889－3838
編集発行人
山本文匡
https://www.jissouji.net
第184号



お寺の掲示板

『法句経（ほっくきょう）』は原題を『ダンマパダ』といい、『スッタニパータ』に次ぐ、古い時代に成立した経典です。

日本では、8月15日は終戦記念日ですが、今も世界各地で戦争が続いています。特に最近、イスラエルやパレスチナでは学校を標的とした攻撃の応酬が報道されていて、あらためてお釈迦様の言葉が心に響きます。

『境内一斉清掃』

7月28日（日）午前7時半より、境内一斉清掃を実施したところ、早朝から21名の方がご参加されました。清掃後は秋月塔と無縫塔に皆でお参りしました。左記の皆様、暑い中、誠に有難うございました。

三崎屋雅之、中井一誠、高見政己、天野秀俊、山﨑孝哲、佐野浩二夫妻、松本幸一夫妻、新居悦子、山﨑正晃、渋谷幸一、中井愛雄、佐野幸治、中井雄三、中井宏幸、渡辺浩、山下正城、藤澤健二、【坐禅会】戸澤祐二、秋山明弘、順不同・敬称略

「業と空」2

前回、現代の日本仏教では積極的に説かれない業論を、なぜ一種の救いだと感じたのでしょうか？

その理由は二つあります。一つは前回ご紹介した闇夜多尊者の両親の様に、真面目に努力した人が報われない一方、狡猾にうまくやっている人もいる、というのは世間によくある話だからです。そんな時、今生では悪業の報いを受けていなくても、次生か後の次生で必ず報いを受けるという「三時業」は、現実世界では解消出来ない現在の不満を解消してくれます。

もう一つは希望を持てることです。同じく今生では果報を受け取っていなくても、今生で積んだ善根功徳は必ず次生か後の次生で果報となって帰ってくるとなれば、それはけして無駄な努力ではありません。将来の為に積み立てている貯金のようなものです。

考えてみれば、世界宗教は全てこういう構造になっています。ユダヤ教・キリスト教・イスラム教は全て同じ神様を信仰しています。ですから最終的にはどの宗教でも「最後の審判」で天国に行くのか、地獄に落ちるのかが決定します。信者はその日の為に神様との契約を守って日々生活するのです。

ヒンズー教はそもそも業論の元祖です。六道輪廻も三時業も仏教の説というより、お釈迦様が生まれた時には既にインド社会に浸透していたバラモン教（後のヒンズー教）の考え方であり、仏教も多大な影響を受けています。

つまり簡単にいえば、そもそも「死後の世界に救いを見出す」のが宗教の性質なのだということを、あらためて再認識した訳です。

勿論、現代日本で死後の世界の為に生きているという人は殆どいないでしょう。むしろ「存在するのは現実世界だけ」、と思っている人の方が圧倒的に多いと思います。ただ、そういう世界観だからこそ、現代は生きづらい訳です。全ては自己責任、人生うまくいくのも、いかないのも、それは自分の所為だというのが現代の社会風潮です。

そのため時々、解消出来ない不満を解消する為に、電車や歩行者天国での無差別殺人や障がい者や小学生などの弱者を襲う殺傷事件が起こるのでしょう。

もしも、人生が思い通りにならなくても、「これは自分の所為じゃない、前世の報いだ」と思えれば、少しは気が楽じゃないですか？実際、業論にはそういう歴史もありますし、最近の「親ガチャ」という若者言葉も、自己防衛の為の心のガス抜きなのかも知れません。

ただお釈迦様はそれとは全く違う解消法を説かれた訳です。（続く）